

2014年4月10日  
株式会社日立製作所

## 欧州の原子力研究開発拠点「欧州原子力研究センタ」を設立

株式会社日立製作所(執行役社長兼 COO:東原敏昭/以下、日立)は、このたび、欧州の先進的なプラントの予防保全技術や実績のある原子力施設の廃炉技術を取り入れ、安全で高効率な原子力技術の開発を目的として、英国のロンドンなどに研究開発拠点「欧州原子力研究センタ(European Nuclear Research Centre:以下、ENRC)」を2014年9月末までに設立することを決定しました。

英国では、1956年に西側諸国初の原子力発電所とされるコールダーホール原子力発電所の商業運転以来、原子力発電所の建設、予防保全、廃炉などさまざまなノウハウや技術を培ってきました。特に英国の原子力発電所を支えてきた研究開発においては、大学を中心に材料や計測技術など、基盤研究に強みを持っており、最近では、廃棄物処理や廃炉に関する研究開発が積極的に行われています。

ENRCでは、英国をはじめとした欧州の大学との共同研究によって、欧州がこれまで蓄積してきた先進技術と日立のBWR(Boiling Water Reactor:沸騰水型原子炉)技術を融合し、より安全で高効率の原子力技術を開発します。例えば、原子力施設内で作業する作業員の放射線被ばく量を低減する技術や原子力プラントの稼働率を高める技術を開発することで、英国で開発するBWRの設計への適用をめざします。また、これらの活動を通して、現地に日立のBWR技術を理解する人材の育成をめざすとともに、中長期課題である廃棄物量の削減や、原子力施設の廃炉コスト低減についても取り組みます。

なお、日立は、ENRCの設立に先行して、2014年4月1日から英国の6大学と先端メーカー等で構成される非破壊検査の研究コンソーシアム(Research Centre in Non-Destructive Evaluation:RCNDE)に参加し、英国での産学連携による取り組みに着手しました。

日立は、欧州の先進技術と自社が有する原子力技術を融合し、高信頼・高効率な原子力プラントのグローバル展開を進め、併せて国内原子力施設の廃炉などの中長期的課題の解決に積極的に取り組みます。

以 上

---

このニュースリリース記載の情報(製品価格、製品仕様、サービスの内容、発売日、お問い合わせ先、URL 等)は、発表日現在の情報です。予告なしに変更され、検索日と情報が異なる可能性もありますので、あらかじめご了承ください。

---